

令和3年度 文学部人文学研究科 国際化推進室 活動報告

人文学研究科
旧 国際教育交流センター
曾 焯

1. はじめに

令和3年度の文学部・人文学研究科国際化推進室及び国際教育交流センターの業務に関する報告を行う。

2 留学生の受け入れ業務

文学部・人文学研究科では、私費留学生及び文部科学省国費留学生の受入業務は、国際化推進教員2名の体制で対応している。

私費外国人研究生の受け入れは年2回実施している。応募は、国際化推進室が管理する「名古屋大学研究生応募支援システム (NU-AAS)」によってオンラインで行う。一部希望指導教員に直接連絡する分野を除き、国際化推進教員2名が申請書類を確認した上、必要に応じてZoom面接を実施し、希望動機、言語能力、研究内容についての所見を希望指導教員に報告する。

国費留学生の受け入れについては、国際化推進教員2名が日本政府奨学金「日本語・日本文化研修留学生」プログラムの研究科内選考を担当した。協定校から大学推薦による日本政府奨学金「日本語・日本文化研修留学生」プログラムへの2022年度に応募者は4名であり、書類審査やZoom面接により、1名を推薦することになった。

3. 在学留学生の支援

留学生相談

名古屋大学大学院人文学研究科は200人以上の留学生が在籍し、筆者を含め国際化推進教員2名および事務員1名の体制で対応している。

筆者は、心身の健康、研究内容、奨学金の申請、在留手続き、進路相談など、多岐にわたる相談に対応し

た。特に、コロナ禍の中、遠隔授業や帰国できないなどの日常生活の変化により、急に体調が壊したり、精神的に不安定な状態になったりする学生も少なくなかった。中には医療機関に緊急入院したケースもあり、筆者は入院手続き、受診の通訳に対応した。

また、新型コロナウイルス感染拡大の継続により、渡日前の留学生からは、入国手続き、大学までの移動手段、隔離生活などの相談も多かった。

チューター関連業務

人文学研究科では、国際化推進教員2名で、渡日後1年未満の新入留学生を対象に、10月と4月の年2回、チューターの配置を行なっている。筆者は、秋学期入学の留学生29人、春学期入学の留学生22人に対してチューターのマッチング作業を分担した。また、例年対面で実施したチューター・留学生・国際化推進教員の三者面談を、オンライン実施に変更し、筆者は秋学期と春学期合計51組のオンライン三者面談を実施した。さらに、今年度の大学院入試は完全にオンライン面接の形式に変更されたため、大学院を受験する留学生に対しては、通常のチューター活動に加えて大学院の入試対策についてアドバイスをを行なった。

各種オリエンテーション

筆者は、2021年春学期と秋学期開催された全学留学生オリエンテーションの英語オンライン相談会を担当した。また、2021年秋の引越オリエンテーションの英語セッションを担当した。さらに、今年度オンライン開催となったNUSTEP進学説明会では、文系学生を対象に、本学の留学プログラムを説明し、Q & Aセッションを担当した。

また、2021年4月と2021年10月には、文学部・人文学研究科の新入研究生ガイダンスの一部を担当した。

留学生サポートに関するイベント企画

昨年度開催された「第1回名古屋大学多文化共生川柳コンテスト」は参加者から高い評価を得たため、今年度も工学研究科の国際化推進教員と連携し、「第2回名古屋大学多文化共生川柳コンテスト」をオンラインで実施した。今年度は、名古屋大学の学生だけでなく、社会人、名古屋大学協定校の学生から、合計150件以上の応募作品があった。

4. その他の業務

全学新入留学生オリエンテーションで用いる動画資料をよりわかりやすくするため、留学生支援事業を申請し、春学期に名古屋大学に在籍している8名の学生を雇用し、全学新入留学生オリエンテーション動画資料の一部（在留資格、アルバイト、保険関係）を新たに作成し、10月に新入留学生で公開した。

さらに、8月中に全学同窓会支援事業から支援を得て、留学生を中心に、企画から動画編集まで一連の作業を行い、全学新入留学生オリエンテーション動画資料の「学習と研究」、「大学生活」の部分も作成した。